

新市場整備・輸出拠点化等調査特別委員会

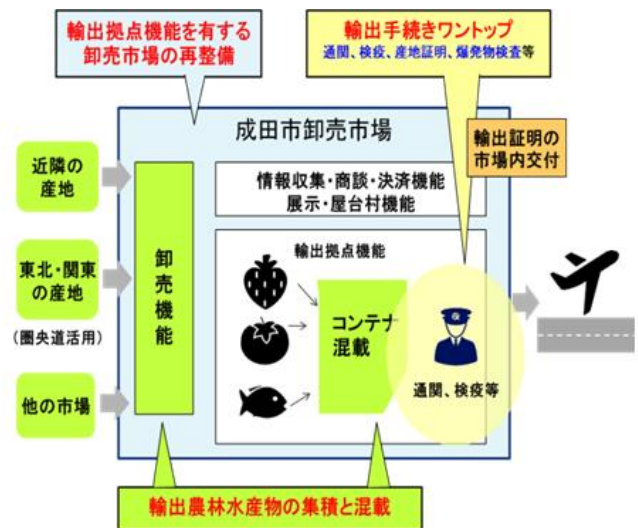
日本の農水産物の輸出拠点として、令和4年1月20日に新生成田市場が開場

新生成田市場の概要

令和元年6月から整備工事を進めていました新生成田市場は、市民の「食の台所」としての役割に加え、衛生管理の整った加工施設や、農水産物の効率的な輸出を可能とするワンストップ輸出拠点機能を備えた日本初の卸売市場として、本年1月20日に開場しました。

成田空港や東関東、圏央道などの充実した広域交通ネットワークを最大限に活用し、日本全国から集めた安全・安心な生鮮食料品等を市民に安定的に供給するとともに、国や県をはじめ、市場関連事業者や空港関連企業などとも事業者間の垣根を越えて連携し、日本産農水産物の輸出拠点化を推進することで、新たな付加価値を備え、将来を見据えた市場となることを目指しています。

また、新生成田市場には、肉や乾物、調味料や包装資材等の販売を行う関連食品棟や、市場から調達した新鮮な食材の買い物や食事が楽しめる集客施設棟の整備も予定されています。



主な質疑

Q 地元の農産物である米やサツマイモに照準を当てた輸出拡大はどのように具体化されるのか。

A 国は、農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略を策定し、品物を指定してさまざまな支援を行うこととしており、そのリストの中にサツマイモの輸出産地として本市や香取市等が指定されている。その他にも、梨やイチゴ等の地元農産物をしっかりと輸出しながら、市内農家の振興にも寄与していきたい。



Q 新生成田市場の機能を発揮するためには、集客施設棟も欠かせない施設だと思うが、現在の検討状況は。また、いつ頃のオープンを想定しているのか。

A コロナ禍においては、できるだけ事業参入に向けたリスクを分散して、ハードルを低く抑えられるよう、さまざまな関係機関と打合せをしている状況である。新市場の開場が近づき、多少風向きが変わってきたところもあり、いくつかの事業者からは具体的な集客施設のプランを提示いただくなど、ようやく民間事業者にも動きが出てきたように感じている。

現時点での具体的なオープン時期の設定は難しいが、現在想定しているスキームをベースとすれば、令和6年度中にオープンできればというイメージだが、詳細は今後検討していく。

関連食品棟は令和4年9月末に竣工予定(令和3年9月定例会)

リース方式にて関連食品棟を整備へ

新生成田市場において、肉や乾物、調味料や包装資材等の販売を行う事業者が入場する関連食品棟については、現市場の関連食品棟を運営している事業者が整備することとしていましたが、移転を希望する事業者より、成田市で関連食品棟を整備し、運営してほしいとの嘆願書が提出されたことなどから、成田市がリース方式※にて整備します。



※リース方式…民間が資金調達から公共施設の設計・建設、維持管理などの業務をトータルで行い、そのサービス対価をリース料として受け取る契約の仕組み。

主な質疑

Q 新たに成田市がリース方式にて整備する関連食品棟の店舗数が、現市場の関連食品棟と比較して少ないように思えるが、15店舗とした根拠は。

A 現市場の関連食品棟で市場関連の業務を行っている事業者にヒアリングを行い、十分に市場の補完的機能を果たすことが可能な数を総合的に判断し、15店舗とした。

成田市公設地方卸売市場の設置及び業務に関する条例の一部改正(令和3年12月定例会)

関連食品棟が整備されるまでの代替措置

新生成田市場の開場から関連食品棟が供用を開始するまでの間も、市場の補完的機能が損なわれることのないよう、本体棟の高機能物流棟の一部エリアを活用し、暫定的に関

連事業者が営業を行うことができるよう、手続きや使用料などを設定するため、成田市公設地方卸売市場の設置及び業務に関する条例の一部を改正します。

主な質疑

Q 改正される条例において、関連食品棟が整備されるまでの間は最大3事業者、関連食品棟が整備された後は最大20事業者と規定されており、実際に整備される入居小間数の15区画と異なるが、その理由は。

A 関連食品棟が整備されるまでは、高機能物流棟の一部などの暫定的な関連事業者店舗として活用が可能な場所の数から最大3事業者とした。また、新たな関連食品棟が整備された後は、将来的な小間の分割などを想定し、最大20事業者とした。